

Ⅳ おわりに

2年間にわたり、「学ぶ側に立った段階的なリスニングの指導法」を主題として、理論研究、調査研究及び授業研究を行った。学ぶ側の英語に対する意識を分析すると、「すべきこと」、「したいこと」そして「できること」に分類される。この三つの部分の重複した部分を少しでも多く取り入れながら授業に生かしたいと考えた。しかし、リスニングだけを取り上げると、「すべきこと」と「したいこと」の二つの輪から、「できること」の輪がかけ離れていることがわかった。「できること」の輪を二つの輪に合わせていくことが教師の役割と言える。開けるようにならないければ、話せるようにもなれないし、十分なコミュニケーションを図ることもできない。このことは、生徒だけでなく、教師にも言えることである。教師自身が特別に聞くことの指導を受けた経験がなければ、自分の受けた指導、つまり、読むこと、書くことが中心となる指導をそのまま繰り返すことになってしまう。教師自身がリスニングの力を習得するための自己研修がまさに必要になっている。そして、その継続的な研修を通して、習得したリスニング・テクニックを生徒に知らせ、ともに学び合うことも、生徒のリスニングに対する興味・関心、意欲を高めることにつながるものと考えられる。

今回の研究において、次のような点が明らかになった。

- 1 リスニングは、集中力を必要とするので、心理的な抵抗のない場が設定されれば生徒は学習しやすい。教師は学習の場の工夫に配慮することが大切である。
- 2 生徒は英語を聞くことに興味・関心がある。身近な話題を聞くことは楽しいと感じている。「生徒の習得している今の聞く力で、できることは何か」といったポジティブな発想でリスニング指導を工夫することが大切である。
- 3 授業の中でリスニングの機会を多くもつことによって、生徒はリスニングに慣れ、聞く力が身に付き、興味・関心が増すことがわかった。毎時間、少しでもリスニングの時間を取り入れることが大切である。
- 4 リスニングは、耳と目の両方をフルに使うことを必要とする立体的な学習なので、視聴覚機器（OHP、テープレコーダー、ビデオ、LL等）の併用はリスニング学習に効果がある。また、AETの活用は、生きた英語を直接聞いて、学べるということで聞くことの興味・関心、意欲を高めるのに、大変効果がある。
- 5 生徒が段階的課題を取り入れたワークシートを選択し活用すれば、聞く力に応じた学習が可能になり、生徒の習得意欲や上達意欲が高まることが分かった。ワークシート作成に当たっては、生徒の聞き取る力の差に対応するために、絵やリスニング・ポイントを付け加えたり、聞き取れたことを自分自身で確認できるように、表を完成させたり、空所補充させたりすることが大切である。
- 6 焦点を絞った能動的な聞き取りをしたり、リスニング・テクニックを学ぶことにより、生徒はわかったという満足感を味わうことができた。授業の中で、各自の弱点を明確にし、その原因をさぐり、補強する方法を知らせる必要がある。特に、リズム、強勢、連音、音の脱落及び省略、区切りに注意し、診断の役割を果たす授業にすることも大切である。

以上のように、本研究を通して、明らかになった点も多いが、残された課題もいくつかある。今後の研究課題として、継続して取り組んでいきたい。